

ウワナベ古墳

全長 255m・後円部直径 130m・前方部幅 129mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。前方部西側のくびれ部寄りに造り出しを有し、3段築成の墳丘には葺石と埴輪列が認められる。墳丘の周囲には、2重の盾形周濠と堤がめぐる。

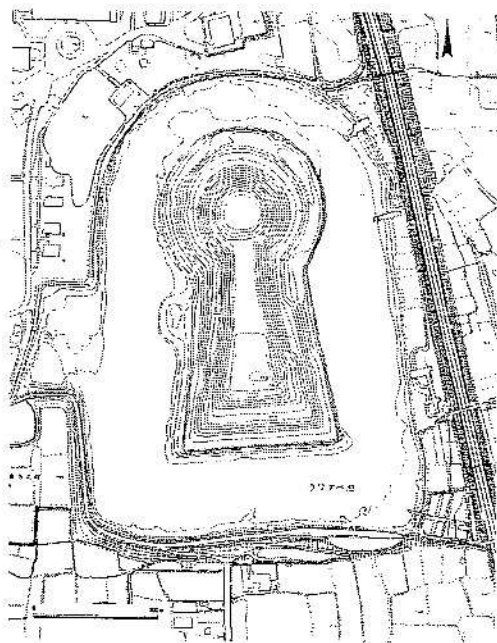
内濠は、幅約 50~60m、深さ 4m前後である。

内堤は、西北で上面幅約 24m、東南隅で上面幅約 30mとなり、墳丘側の斜面にのみ葺石が認められる。内堤上面には2重の円筒埴輪列がめぐり、そのほとんどが鱗付円筒埴輪である。

外濠は、墳丘西側で幅約 17.6m・深さ約 1.2mで、葺石は認められない。墳丘西北側で外濠が途切れる箇所があり、渡り土手がそこに取り付く可能性が想定できる。

外堤の詳細な規模は未確認であるが、外堤上には 7.5mの間隔をあけて円筒埴輪が配列されていた。円筒埴輪は鱗付で、幅広の突帯（幅 2.5 cm前後）がめぐる特徴的な形態である。

出土埴輪はⅣ期前半の様相を示し、築造時期は5世紀中葉と推定できる。



ウワナベ古墳

コナベ古墳

全長 210m・後円部直径 130m・前方部幅 135mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。前方部東西両側のくびれ部寄りに造り出しを有し、3段築成の墳丘には葺石と埴輪列が認められる。墳丘の周囲には盾形周濠と外堤・外周溝がめぐり、さらにその外側に方形墳を主体とする陪塚 10 基が配置されている。

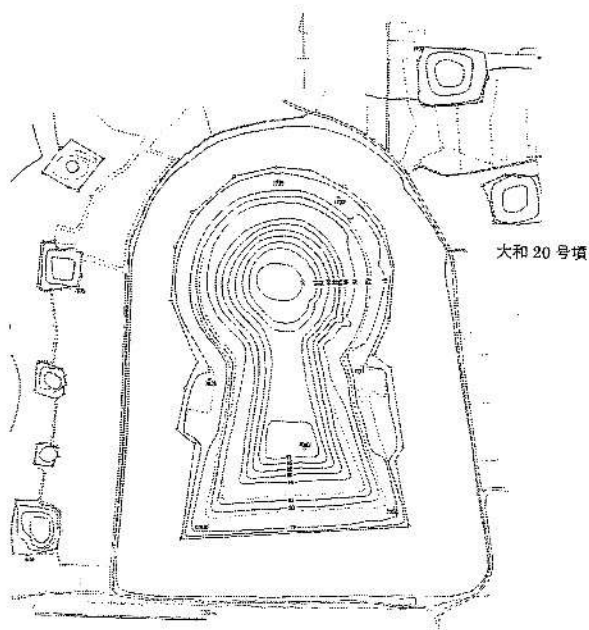
周濠は、幅 30m前後で、深さは未調査のために不明。

外堤の上面幅は 15m余りで、2重の円筒埴輪列がめぐる。内側の埴輪列が心々間約 45~50 cm間隔で密に並ぶのに対し、外側の埴輪列は約 8.7m間隔で疎らに配されている。また、埴輪の特徴にも違いが認められ、内側の埴輪列は小型（底径 22 cm前後）の普通円筒埴輪であ

るが、外側の埴輪列は大型（底径 40 cm前後）の鱗付円筒埴輪となる可能性が高い。

外周溝は幅 3.0~3.5m、深さ 0.3~0.4mで、断面形は緩やかなU字形となっている。埋土から奈良時代の瓦と共に三角板革綴短甲の地板1枚や鉄鏃が出土しており、周辺の陪塚が削平された際にその副葬品が混入したものと想定されている。

出土埴輪はⅢ期の様相を示し、築造時期は5世紀初頭頃と推定できる。



コナベ古墳

大和 20 号墳